

## 第8回日本認知症予防学会学術集会 発表

題名；表情の数値化による認知症症状の評価～中鎖脂肪酸摂取による表情の変化について～

氏名；佐々木明子<sup>1)</sup>、江藤節子<sup>2)</sup>、加藤一彦<sup>3)</sup>、末満ひろみ<sup>3)</sup>、杉山妙<sup>1)</sup>、増田洗司<sup>1)</sup>、村野賢博<sup>1)</sup>、

所属；<sup>1)</sup>日清オイリオグループ株式会社、<sup>2)</sup> グループホームバナナ園横浜山手、

<sup>3)</sup>医療法人彦仁会かとうクリニック

【目的】認知症罹患者は症状の進行に伴い、表情変化が乏しくなり、無表情になるとの報告がある。我々は、このような認知症罹患者の表情に着目し、画像センシング技術を用いた評価手法の構築に向けた検討を行っている。今回、中鎖脂肪酸油の摂取に伴い、一部の認知症罹患者において表情の変化とともにBPSDや日常生活にも変化が見られたため、その評価手法と結果について報告する。

【方法】認知症罹患者の80代女性4名を被験者とし、中鎖脂肪酸油含有食品の摂取前後における変化の有無を観察した。

観察は①介護者の主観的評価(阿部式BPSD・表情観察)、②画像センシング技術による客観的評価、以上2点を実施し、表情を中心に中鎖脂肪酸油の摂取前後における変化の有無を評価した。

【結果】①主観的評価：中鎖脂肪酸油摂取から1か月経過したあたりで「笑顔の増加」が介護者の実感として得られた。また阿部式BPSDの点数が高い被験者1名では、中鎖脂肪酸油摂取から半月程度でBPSD点数の低下が確認された。また4名中3名の被験者で阿部式BPSDにおいて幻覚・妄想の改善がみられた。

②客観的評価：笑顔の増加に着目し、画像センシング技術による表情解析を実施した。中鎖脂肪酸油摂取前の笑顔の出現割合を基準に、中鎖脂肪酸油摂取中～摂取後の笑顔の出現割合を算出したところ、被験者4名中3名に笑顔の出現割合が増加傾向にあることが認められた。

【考察】中鎖脂肪酸油摂取後、『介護者の実感』と『表情解析』ともに笑顔の増加が認められた。また表情の変化だけでなく、BPSDの改善も併せて確認された。

以上から、画像センシング技術による表情解析を用いた認知症罹患者の評価手法が有効であることが示唆された。また、中鎖脂肪酸油摂取によるBPSDの改善の可能性も示唆された。